

広島芸術学会 芸術展示《制作と思考》第10回展

「不在の存在論」(報告)

会期：平成29年2月21日(火)～26日(日)

会場：広島県立美術館 県民ギャラリー第4室・5室、ギャラリーG

このたび、第10回目の節目となる芸術展示「不在の存在論」を開催した。出品作家は広島芸術学会会員14名と、ゲストである招待作家3名の計17名。記念すべき10回展ということもあり、広島県立美術館とその斜向かいに位置するギャラリーGの2か所で作品を展示した。入場者数は916名。また、2月25日(土)14:00から開始したアーティスト・トークには10名の作家が参加し、制作コンセプトについて作家自身から説明がなされた。とりわけ、作家・来場者による質疑応答は、作家がいかにコンセプトを醸成したかを深く知ることができる貴重な機会であったように思う。

本展のテーマは「不在の存在論」とした。この言語的矛盾を孕んだテーマを設けるにあたっては、広島における原爆投下を踏まえている。原爆によって広島では多くのものが失われ、多くのものが忘れ去られた。しかし、持ち主の失われた被爆遺物が、そこにいた人をときに想起させるように、微かに(しかし確実に)残り続けるものがこの街には存在する。出品作については、必ずしもヒロシマを意識したものでなくとも良いと募集の際に明記させていただいたが、どういった作品にせよ、広島に生まれた者、あるいは広島に住まう者ならではの「不在」の表現を見ることが出来るのではないかという想いが筆者にはあった。そして実際、本展においては出品者一人一人が作家ならではの視点で「不在」という概念を捉え、素晴らしい作品を生み出していただいた。

個人的に強く印象に残ったのは、的場智美氏の映像作品《あなたがいたころ》であった。本作では、作家の父母の写真がスライドショー形式で左右に同時投影されており、両親の誕生から死に至るまで、少しずつ年を重ねていく二人の人生に鑑賞者は立ち会うことができる。また、船田奇岑氏作品《紅梅》は、父親が手掛け始めようとしていた屏風を支持体に、父が何を描こうとしたか想像しながら制作した後、一度描いた片隻を金箔・金泥で覆い隠すことにより、造形的な妙を作り上げながら、重層的に「不在」というテーマを表現したものであった。制作手法は的場氏と大きく異なるものの、そこには存在と不在、生と死、男性と女性といった対比表現が共通して見られた。

また、本展では招待作家として広島ゆかりの3名の作品を展示した。柴川敏之氏は2000年後に発掘された現代社会をテーマに制作を続けており、身近な事物に幾層も色を塗り重ね、化石のように変容させることで、見る者の想像力を喚起する手法がしばしば取られている。本展では、(まるで巨大な爆発が地上で起こったかのように)幾つも穴が穿たれた地球儀の化石などを出品した。破壊され、人が存在しないように見える地球は、未来への警鐘を示すかのようなのである。諫山元貴氏は、複数の動物の造形を組み合わせ、デジタルデータ化された不気味な怪物を作り出した。中山いくみ氏は、丸木位里・俊の『原爆の図』を引用しながら、そこに今日の広島の風景を重複的に重ね合わせることにより、過去と現在との連続性を孕んだ画面を作り出した。諫山氏・中山氏ともに作品を鏡面的に仕上げている。観者自身が映り込むことにより、鑑賞するにあたって内省を強いる作品となっている。各作品について細かく論じたいところではあるが、誌面の都合もあり割愛する。しかし、いずれも企画者の想像を超えた作品を生み出していただいたように思う。

企画者が設定した「不在の存在論」というテーマに対して、各作家が見事に作品を成立させたことは力量の証明であり、企画者としては僥倖であった。今回の展示にご協力いただいた皆様に改めてお礼申し上げますとともに、研究者だけではなく、作家会員も擁している本会ならではの企画が今後も継続的・発展的に実施されていくことを祈願したい。

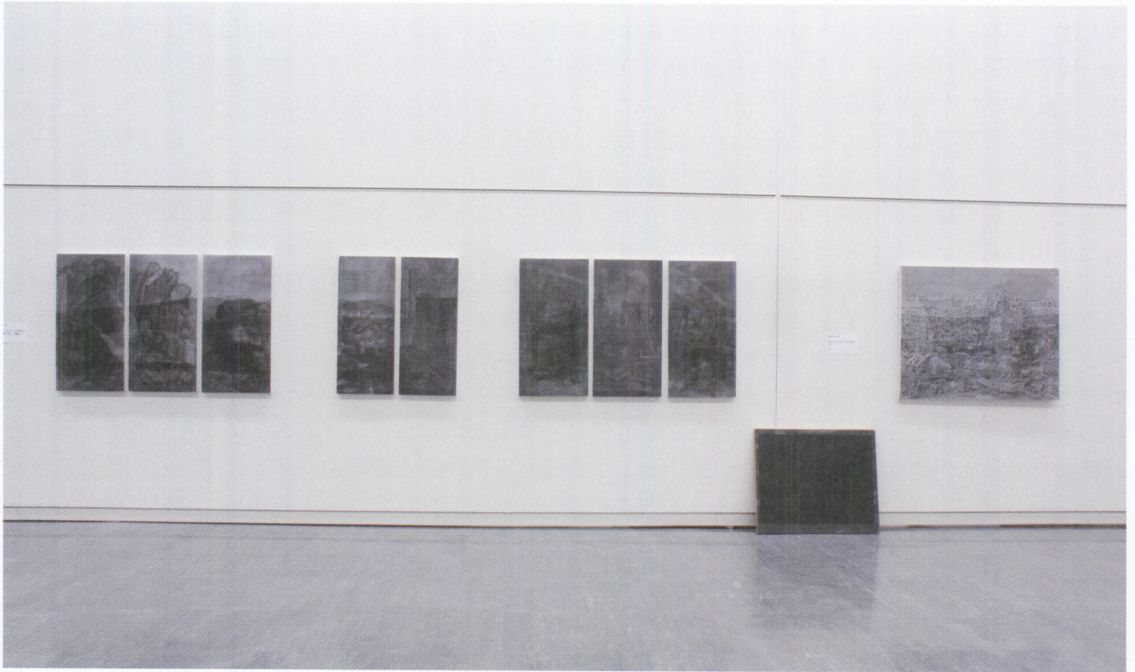
(展覧会企画者 山下 寿水)



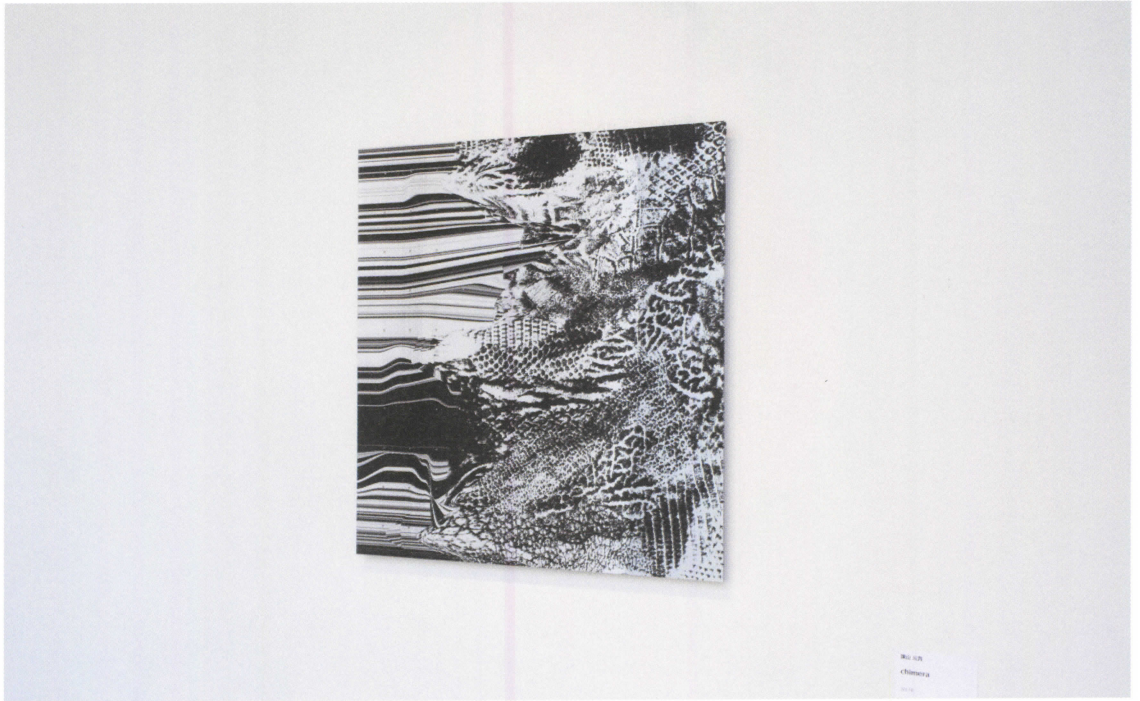
広島県立美術館県民ギャラリー 展示風景



ギャラリーG 展示風景



中山 いくみ
「Re:ターニング・ピクチャー 原爆の図(虹)(漂白)」(左)
「Re:ターニング・ピクチャー Y. F.」(右) 2017年



諫山 元貴
「chimera」 2017年



柴川 敏之
「出現Ⅱ.40121101(2000年後に発掘された地球儀の化石)」(中央) 2012年
「出現Ⅱ.40041122(2000年後に発掘された絵画の化石：ピカソ)」(左) 2004年
「出現Ⅱ.40041125(2000年後に発掘された絵画の化石：ルノワール)」(右) 2004年



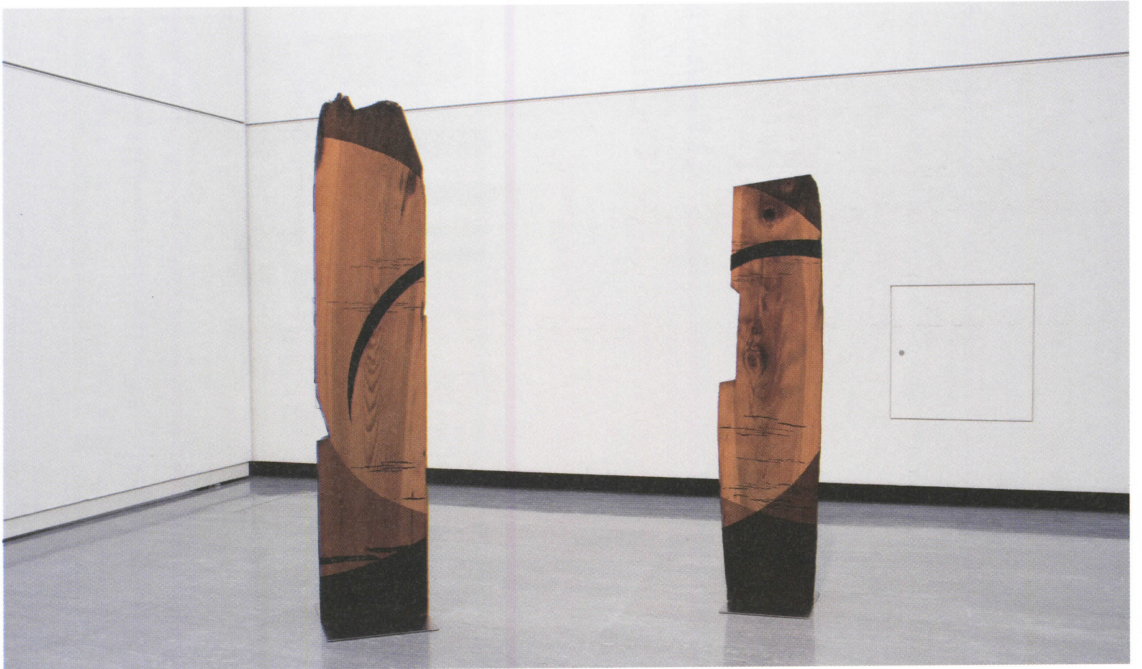
越川 道江
「ソレカラノユクエ」 2017年



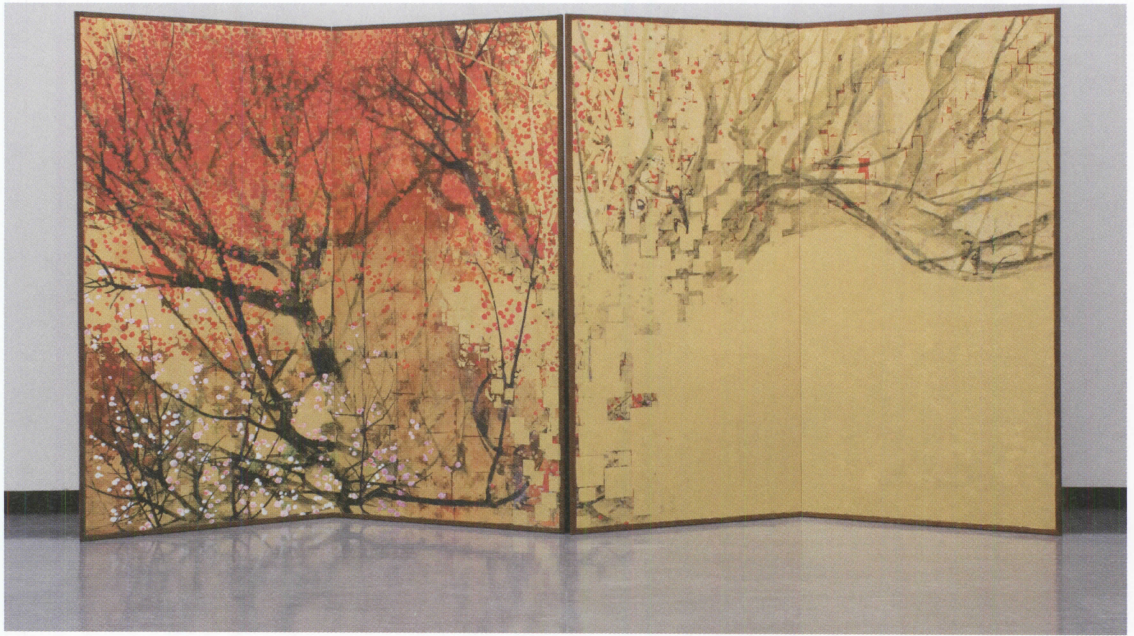
田川 久美子
「何者」 2016年



千田 禅
「当たるも八卦 当たらぬも八卦」 2016年



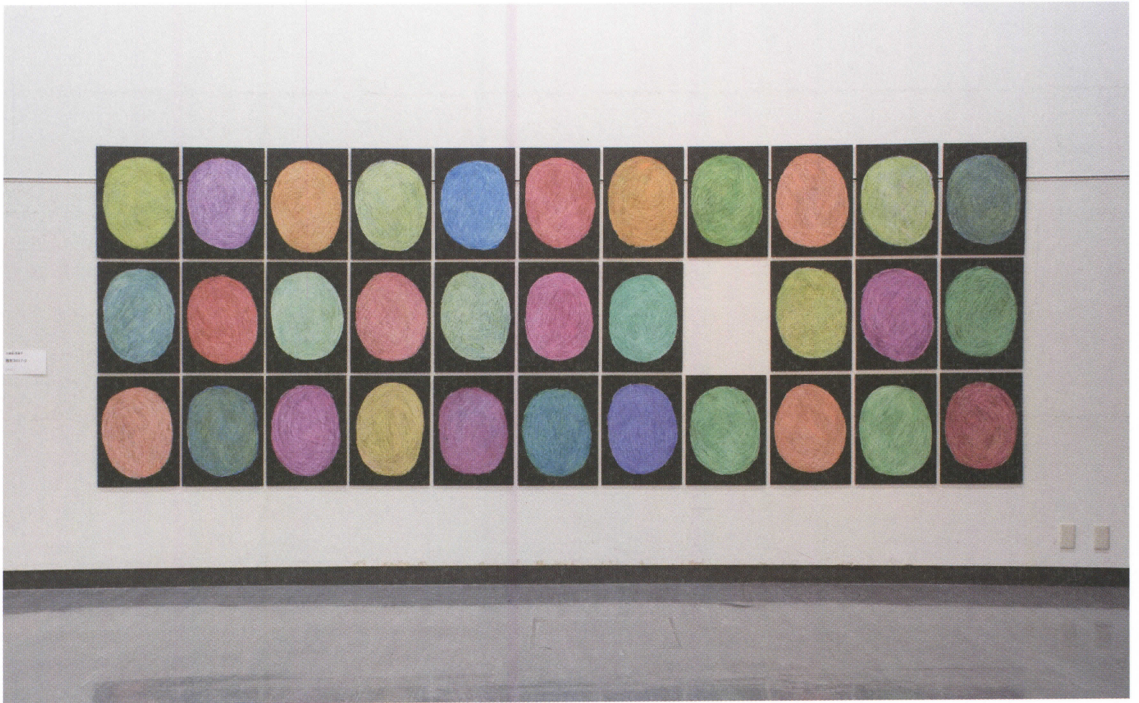
竹村 信子
「あの日から……今」 2016年



船田 奇岑
「紅梅」 2015-17年



才田 博之
「クルマエビのニケ」「コンビニ下剋上城」 2016年



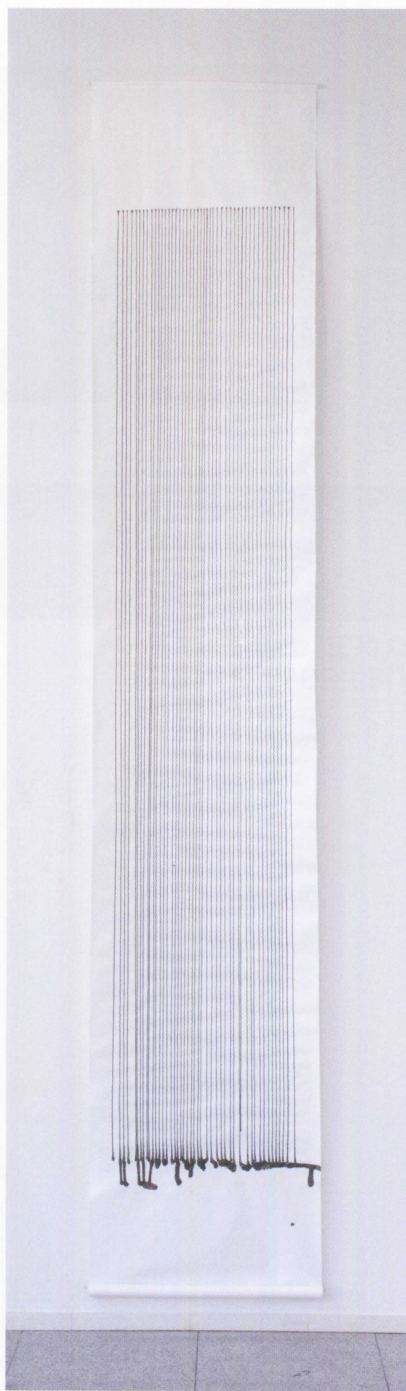
久保田 貴美子
「再生2017-2」 2017年



藪野 圭一
「モシカシテ バクダン ソレトモ キンギョ」 2016年



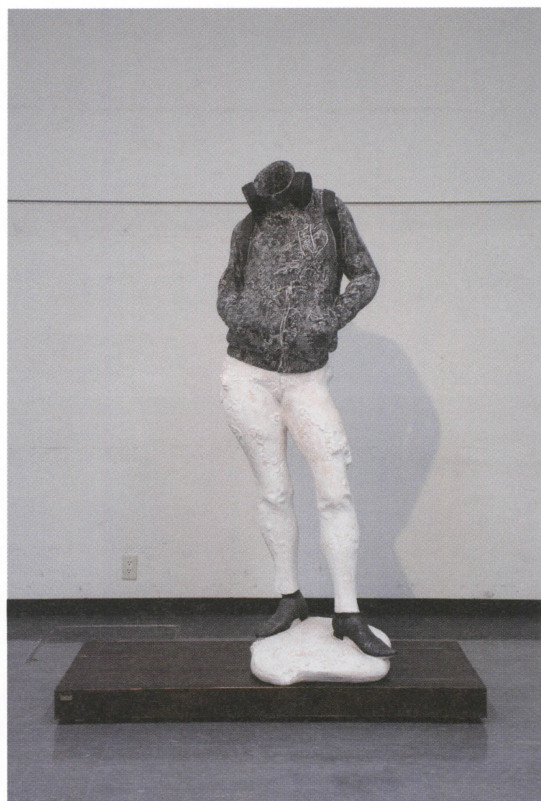
根木 達展
「生(き)一予感」2016年



范 叔如
「垂れる 20161221」2016年



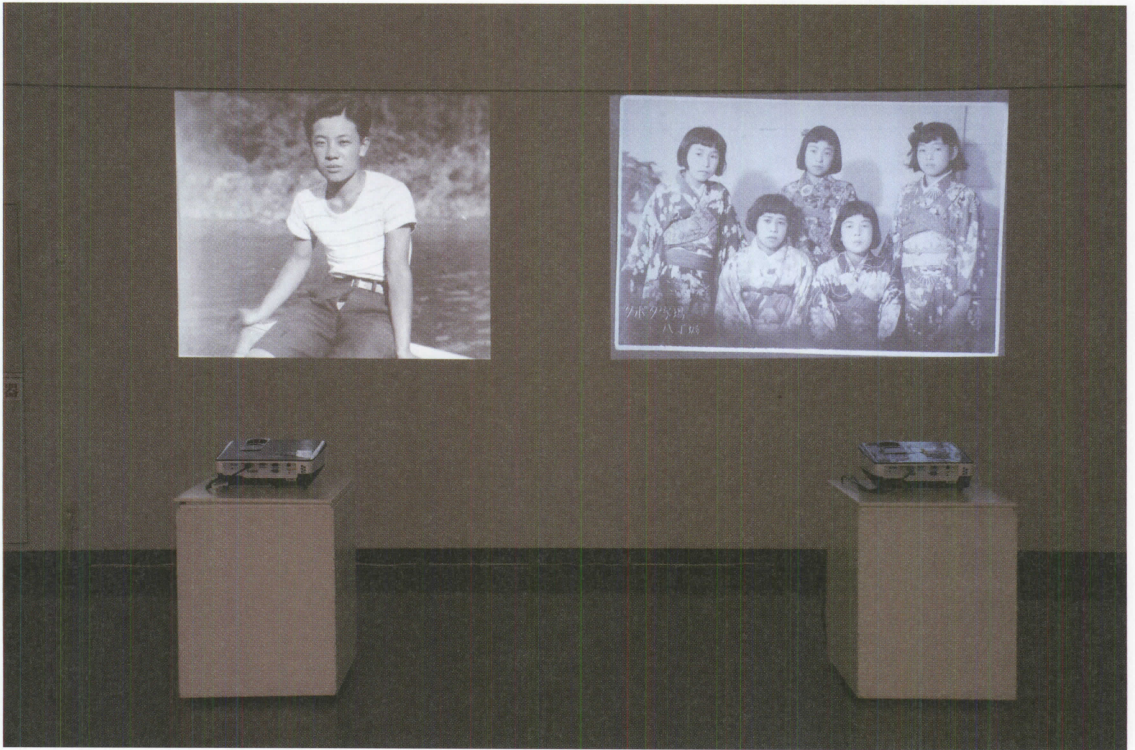
三浦 実一
「無」 2017年



一鍬田 徹
「LIFE(存在の証について)」 2015年



椎木 剛
「未在」 2016年



的場 智美
「あなたがいたころ」 2017年